

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.189

発行: 令和3年4月1日

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況などによって中止、または、内容を変更させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承くださいますよう、お願いいたします。

講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

「神楽岡公園・春の自然観察会」～春の野草を探そう～

とき 令和3年5月4日(火)祝 *小学生以上*

午後1:30～3:30 定員20名

講師 植物研究家 塩田 惇さん



「花、小果樹、野菜の病害虫と防除講習会」

とき 令和3年5月15日(土)

午後1:30～3:30 定員20名

講師 緑のセンター相談員



「ミニカトレアを木片で育てる講習会」

とき 令和3年5月23日(日)

500円

午後1:30～3:30 定員10名

講師 緑のセンター相談員



「立派なコチョウランをもらった時の講習会Ⅰ」

とき 令和3年5月30日(日)

午後1:30～3:30 定員5名

講師 緑のセンター相談員



令和3年度 連続講習会 13:30～15:30

春のタイランドキノワと夏のサギキノワを楽しむ講座 全3回

4/10(土)、7/31(土)、2022/2/5(土) 1,000円



四季成り風イチゴ栽培講座 全2回

5/9(日)、8/29(日) 500円



これから始める家庭菜園の初級講座 全3回

4/24(土)、6/5(土)、7/17(土) 1,000円



誰でも楽しめる美しい菊ガーデン講座 全2回

5/22(土)、6/12(土) 500円



常磐公園花壇ボランティア募集のお知らせ

活動期間: 令和3年5月中旬から10月上旬(月1～2回、主に金曜日)まで全10回、第1回目は、5月14日(金)

場所: 旭川市常磐公園 中央花壇 参加料: 無料(当協会負担でボランティア保険に加入します)

対象: 現地集合可能な方で、期間中の活動日に参加できる方(月1～2回、約2時間程度)

申込・お問合せ: 公益財団法人旭川市公園緑地協会【☎0166-52-1934】



展示会のご案内

「野の花写真展」

4月3日(土)～4月25日(日) 「作品提供」 神田 亘雄氏

【休館日のお知らせ】

4月～10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月～3月は毎週月曜日が休館日です。(")

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況などによって中止、または、内容を変更させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承くださいますよう、お願いいたします。

「山野草展」

5月21日(金)～5月23日(日)

「作品展示」 北海道山草趣味の会

「サツキ展」

5月29日(土)～5月30日(日)

「作品展示」 旭川サツキ会

〈園芸の基礎知識〉 植物の根の働き

～ 根と微生物 ～

■ こんけんいき 根圏域

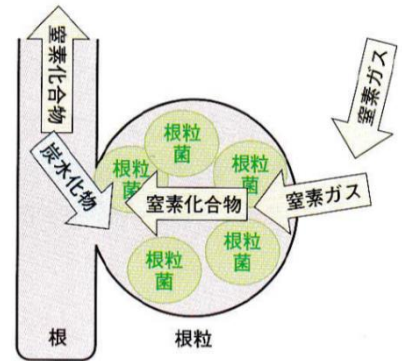
植物の根のまわり（根圏域）は微生物の栄養源となる有機物が豊富なため、微生物の密度が高くな
ます。この根圏微生物と植物の間には「菌根」や「根粒」のように共生したり、「窒素飢餓」
や「連作障害」のように対抗もすることがあります。

■根と糸状菌（カビ）の共生

糸状菌の菌糸が根の中に侵入し、作物に危害を及ぼすことなく、助け合って生存する場合があります。侵入した糸状菌を菌根菌、根をあわせて「菌根」と呼びます。菌根菌は植物の根に菌糸を伸ばし、植物と養分の受け渡しを行います。

■根と窒素^{ちっそ}固定細菌の共生

マメ科の植物の根には、根粒菌^{こんりゅうきん}が住んでいる根粒^{こんりゅう}がたくさん付いています。根粒菌^{こんりゅうきん}は、空気中^{くうきちゅう}に無尽蔵^{むじんそう}に含まれる窒素^{ちつそ}ガスを作物^{さくぶつ}が使えるアンモニア^{あんもにあ}に変えることができます。



根粒の働きの模式図

■窒素^{ちっそ}養分をめぐる根と微生物^{びせいぶつ}の争い

わら類やバーク堆肥のように、炭素に比べ窒素含量の少ない堆肥を土に混ぜると、分解する際に窒素が微生物に取り込まれ、植物が利用できる窒素が減ってしまいます（窒素飢餓）。

■根連作障害はなぜ起こるか

同じ圃場^ほで同一の作物をつくり続けることを連作といいます。特定の作物をかたよって栽培すると減収をします。連作障害を助長する要因は、土壤養分バランスが崩れて作物体内の養分の過不足を招き、作物やその根を脆弱^{ぜいじやく}にし、病原菌の侵入を助長します。

(参考資料: 研成社「根物語」、北海道農協土づくり運動本部「畑の土づくり」・「土づくりQ&A」ほか)

ちょっと楽しい講座のご紹介

緑の講習会「マクラメ編みでフランチハンガー作り」から

マクラメ(Macrame)とは紐を結んで装飾・模様をつくる技法のことで、アラビア語の「ムクラム」(格子編)に語源があるといわれており、「交差して結ぶ」という意味があります。当緑のセンターでは、一部簡単なマクラメ編みで化粧した鉢花を販売していますが、たいへんご好評をいただいています。

さて、この講座は、コロナ禍のなかですので5名の受講者とさせていただき、1月10日に開催しました。講師は当センター植物管理職員2名が担当しました。

材料は太さ約4mmの麻ひもを本体用、まとめ用を用意し、メタルリングが1個です。さっそく、次の3つの基本の結び方を覚えていただきました。①本体用ひもを束ね、まとめ用のひもを上から下へ隙間なく巻きつけるまとめ結び、②芯ひもに2本のひもを繰り返し出し入れするねじり結び、③芯ひもに2本のひもを組み合わせる平結び、の3種類の結び方を組み合わせて、さっそくマクラメ編みに取り組んでいただきました。講師の助言もあり、全員が2時間の時間内に仕上げるこ編みに似合うかわいいつる性植物を育てたい！」「次は2鉢がいっしょに入るマど、期待以上のできばえに満足された受講者の皆さんでした。



植物の病害虫

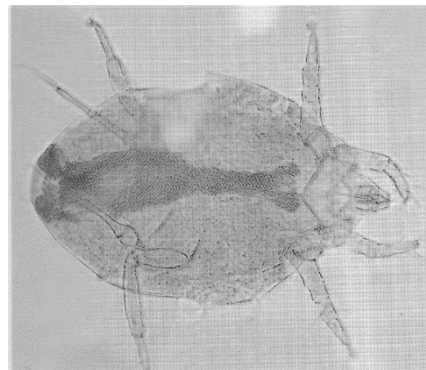
その60「ナスのチャノホコリダニ」



寄生によって奇形となった新葉



表面が灰褐色になり、変形した果実



雌成虫(顕微鏡写真)

非常に小さいため肉眼では見えにくい

1 寄生しやすい植物

ナス、イチゴ、インゲン、ピーマン、キュウリ、シクラメン、ガーベラなど

2 被害

葉裏が褐色をおびて光沢があり、葉の縁が裏側へ曲がります。新芽では葉が開かなくなり、芯止まりとなります。花や実の数が減少し、開花しない蕾や奇形花を生じます。

果実ではヘタが灰褐色になります。また、ヘタの周辺に網目状の灰褐色の傷がつきます。本虫は体長約0.2mmで非常に小さいため、肉眼では発見できません。このため、被害の原因わからないまま放置されていることが多くなります。

低温に強いいため、加温ハウス栽培では、冬期でも本虫が発生し、被害が見られます。露地栽培では6～7月頃症状がみえはじめ、夏季以降に被害が増加します。

3 生態

ホコリダニの発育は、卵、幼虫、静止期幼虫、成虫の順に行われます。チャノホコリダニは1日に1～5卵を産み、1～2週間にわたって総計15～30の卵を産出します。卵は緑色扁平で葉の表面に固着しており、表面は白色の気泡状の点で覆われます。発育に要する期間は20℃で13～17日、好適発育温度は、15～20℃とされています。

寄生は、上位3葉ぐらいまでの新葉に多く発生します。蕾や花、幼果では比較的少なくなります。ナスに寄生する前の発生源としては、クローバーなど雑草で越冬しています。

4 防除法

- ① 常発地帯では、周辺の雑草や樹木が発生源となりますので、栽培圃場周辺の雑草を取り除きます。
- ② 多発すると防除が困難になりますので、早期発見・早期防除に努めます。
- ③ 摘葉や摘芯の残渣は発生源となりますので、圃場外に持ち出して処理をします。
- ④ ダニ専用剤を新葉部、葉裏を重点に散布し、同一薬剤の連用をさけローテーション散布をします。



春先の園芸植物の管理

キタコブシの花は神楽岡公園で真先に咲き出し、いち早く春を感じさせてくれる花です。芳香のある大きな花はひときわ目立ちます。

冬の間、室内で楽しんでいたシクラメンやサクラソウ類は、霜に注意しながらも4月下旬ごろから屋外へ出せるようになりますが、その他の植物は5月中旬以降から少しずつ日差しと気温に慣らしながら、徐々に屋内から屋外へと生活の場を移して行きます。

1 鉢花・草花・球根類

- ・ アザレアは根の生育が旺盛なので樹形を整える剪定をした後、固まったフェルト状の根を崩して3分の1くらいに切り揃えて植替えます。酸性を好むので用土は鹿沼土7+腐葉土3の混合土が良いでしょう。
- ・ フクシャ、ハイビスカス、ポインセチアなどは徒長枝を間引き、切戻し剪定をします。
- ・ 夏花壇用のサルビアやマリーゴールドなどの草花は、4月上旬にタネ播きして苗を作ります。
- ・ チューリップやスイセンは雪が消えたら芽を出しています。また、プリムラ、シャクヤク、シバザクラなどの宿根草も活動を始めていますので、土の表面が乾いたら油粕や化成肥料などを1㎡当たり各50～60g程度をまいて生育を促します。また、肥料をまいた後は水を打った方が効果が上がります。
- ・ ダリア、カンナなどの植え付けは、地温が10℃以上になる5月下旬～6月上旬を待ちます。

2 洋ラン類

4月中旬にもなると洋ラン類は活動を始めているので植え替えが行えます。新しい鉢に植え替えした後は10日間程度、根の傷み回復と発根を促すために鉢に水を直接やらず、葉裏めがけて霧吹きして補います。その後は乾いたらタツプリ与えます。また、新芽の生長が見られる株には8月下旬頃までの間、2,000倍程度に薄めた液肥を10日毎に与えて生育を促します。濃い液肥は百害あって一利なし。

5月中旬以降は外気温に注意しながらシンビ、デンドロ、カトレア、コチョウランの順に屋外へと出していきます。日光(50%程度遮光)にあてて油粕などの置き肥も始めます。シンビはいくつも芽を出してきますが、1バルブに一芽を目安に残すようにします。他の芽は、かき取ります。

展示室の植物 (95)

ドラセナ・デレメンシス`ウイレンス・コンパクタ`

学名: *Dracaena deremensis*

リュウゼツラン科 ドラセナ属

近年は百貨店にもドラセナの仲間が売られています。「幸福の木」で有名になった「マッサンゲアナ」や、葉色が綺麗な「デレメンシス レモンライム」などを見かけることもあります。右のデレメンシスは熱帯アフリカ原産で別名「シロシマセンネンボク」。小ぶりなので通称「コンパクタ」とも呼ばれますが、寒さに気をつければ虫もあまりつかず、非常に育てやすい種類です。枝先には花が咲いています。

